

「楽しい！」が前に進む力に。

初瀬基樹

園とは別に、私は「IPA くまもと」というボランティア団体の代表をつとめています。「子どもたちにもっと自由な遊び場を！」という思いで、40年近く活動が続けている団体です。毎年、「おもしろ村」という1日冒険遊び場(プレイパーク)を開催するほか、10年前の熊本地震をきっかけに、遊び道具を積んだプレイカー「おもしろカー」で、被災地などに遊びを届ける活動も行っています。先日、わが園のからたちフェスティバルにも登場した、あの派手な車です(笑)。

おもしろカーでの活動を始めてちょうど10年目を迎えた今年、またしても大きな地震が熊本を襲いました。私たちは地震発生の2週間後から、被災地支援のボランティアとして、ほぼ毎週末、おもしろカーで出勤しています。

「休みなしで大丈夫？」と心配されることもありますが、正直なところ、なにより楽しいのです。

被災地で子どもたちと過ごしていると、楽しく遊んでいる姿の向こうに、地震の影響を感じることもあります。

私たちのほうから、遊びに来た親子に地震の話をするのはほとんどありません。それでも、先日の出勤の際、突然、辺りが暗くなって雨が降り出した途端、それまで何事もなかったかのように遊んでいた子が、「怖い～」とお母さんにしがみついたことがありました。お母さんは、その子を抱きしめて「地震じゃないから大丈夫だよ」と声をかけていました。

また、おばあちゃんが子どもの遊ぶ姿を見ながら、「地震があってから、この子は夜、一人で眠れなくなったんですよ」とスタッフに話してくださったこともあります。

いつもどおりに遊んでいるように見えても、子どもたちの心には、私たちの目には見えない不安や傷が残っているのだと感じます。

遊びは、何かを忘れさせたり、すぐに不安をなくしたりするものではないかもしれませんが。それでも、夢中になって遊び、笑い、誰かと一緒に楽しむ時間は、張りつめた気持ちを少し緩め、心を前向きにするきっかけになるのではないかと思います。

私たちのおもしろカーの特色のひとつが、木の枝などの自然物を使ったグルーガン工作です。

「この前、楽しかったから、また来ました！」「これ、めっちゃ、おもしろい！」「今日ここに来てよかった～！」

そんな声が、毎回聞こえてきます。

親御さんが「ほかのところも見に行こうよ」と声をかけても、「まだ作りたい！」。一度ほかの場所を見に行っても、結局また戻ってきて、作り続ける子もいます。親御さんが手を出そうとすると、「自分で作りたいの！」とはっきり意思表示する子もいて、「いいぞ、いいぞ」と思います。

そのうち、付き添いで来たはずの親御さんのほうが制作に夢中になり、「大人がハマっちゃいますね～」と楽しそうに手を動かしている姿も、よく見かけます。

そして、作品ができあがると、「できた～！」と満面の笑みを浮かべて作品を大事に抱え、満足そうに「ありがとうございました」と帰っていきます。

そんな姿を見送るたびに、「この笑顔が私の原動力なんだなあ」と、つくづく感じます。

園でほぼ毎日行っている、けん玉(検定)でも同じような姿があります。何度も挑戦し、夢中になって取り組み、「できた！」という達成感や喜びを味わう。すると、それがまた次の「やってみたい」につながり、さらに夢中になっていく。

「楽しい！」という気持ちが、夢中になる力を生み、「できた！」という喜びが、次の一歩を踏み出す力になる。

これは、遊びに限ったことではないと思います。

子どもたちの姿から、そして自分自身の実感からも、「楽しい！」「できた！」という喜びは、何事においても前に進むための大きな原動力になるのだと感じています。